

外語ビジネス専門学校

2024 年（令和 6 年）度

学校関係者評価報告書

基準日＝令和 7 年 3 月 31 日

学校法人 深堀学園

外語ビジネス専門学校

作成日＝令和 7 年 6 月

学校法人深堀学園 外語ビジネス専門学校
学校関係者評価報告書について

外語ビジネス専門学校（College of Business and Communication：以下 CBC）は、設立当初より全学生に毎年、全ての教科・教員、学校に対してのアンケートを実施するなど、常に自己点検・向上に努めてまいりましたが、2012年に「専修学校における学校評価ガイドライン」の指標に沿い、学校関係者評価を行ってから今年で13年目となります。

本校では、基準項目ごとの統一評価書の評価欄をそれぞれ4段階（適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1）で評価を頂いております。

そのうえで、基準項目ごとの統一評価書の下部に学校関係者の方からのコメントを基に【学校関係者評価改善の方策】をまとめ、「自己評価」に対する総評として「学校関係者評価」を記載しております。

学校法人深堀学園 外語ビジネス専門学校
理事長・学校評価委員会委員長 深堀 和子

学校関係者評価委員会 委員

田中 和徳	全国高等学校定時制通信制教育振興会 副会長 神奈川県高等学校定時制通信制教育振興会 会長	高等学校関係者
西岡 浩史	川崎商工会議所元会頭、名誉顧問 慶應義塾大学 評議員	関係団体有識者
濱 志津子	税理士法人 M&S 総合会計事務所 代表社員 (横浜地方裁判所 川崎支部 調停委員)	財務有識者
有田 奈々子	2012 年度卒業生 株式会社アルプス物流	本校卒業生
三塚 豊子	川崎中央第一社会福祉協議会 理事 駅前本町婦人部 部長	地域関係者

目次（点検項目一覧）

1. 教育前提/基盤について	3
(1)教育理念・教育目的・育成人材像について	
(2)学校の特色について	
2. 2025年度の目標	3
3. 各学科におけるカリキュラム(2024年度)の方針と年度末における報告・改善	3
4. 評価項目の達成と取組状況（統一評価書による自己評価）	
基準1. 教育理念・目標	8
基準2. 学校運営	8
基準3. 教育活動	9
基準4. 教育成果	10
基準5. 学生支援	10
基準6. 教育環境	11
基準7. 学生の募集と受け入れ	11
基準8. 財務	11
基準9. 法令等の順守	12
基準10. 社会貢献	12
基準11. 国際交流	12
基準12. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果基準	13

1. 教育前提/基盤について

(1) 教育理念・教育目的・育成人材像について

1948 年の建学以来、「ボーダレスに活躍するための国際力・共生力の育成」を理念に、国際コミュニケーション能力の育成を通し、各国における産公学の最前線で活躍できる、品格ある人材育成に取り組んできました。近年は、英語力を基盤に貿易・航空ビジネス/ホテル/観光/ICT&メディア等の最新のスキルを併せ持った専門職業人の育成を通して、微力ながらも地域の産業ニーズに応えています。高等教育複線化を構成する教育機関として、社会のリカレントニーズの高まりを受け、2012 年春の文科方針に定めるべく、いち早く単位制に取り組み、多様化する学習者ニーズに応える体制を整えました。修学後の進路も、就職・転職/大学・大学院編入/留学など、学習ニーズと産業ニーズの双方に対応し、今後も社会構造の大きな変化があってもしっかりと存在感のある仕事（役目）が果たせる人材育成に力を尽くしていきます。

(2) 学校の特徴について

- ① 国際コミュニケーション力の育成
- ② 時代の変化に対応する先端をいく教育体制
- ③ 丁寧なキャリア・カウンセリング（履習・就職・転職支援）

2. 2025年度の目標

- ① TESOL 或いは応用言語学の修士や博士号を取得した 3 名のネイティブ専任教師によるカリキュラム編成をします。オーストラリア、アメリカ、南アフリカという異なる国の英語やその背景にある文化に接することで、学生の異文化への理解を広げます。
- ② 多段階レベルの英語授業を実施することにより、学生各自のレベルにあったクラスでスタートできるようにするとともに、半年ごとにレベルアップできる制度を整えていることから、学習意欲を高めています。
- ③ 学校内スピーチコンテストを 2 部制のレベル別にし、多くの学生に英語での発表の機会を与えるようにして参ります。
- ④ ネイティブ教員と個別に話せるコンサルテーションアワーを設け、分からないことを気軽に相談できる環境を作り、英会話力のアップにも繋げていきます。
- ⑤ 各学科の専門科目においては、企業様のご意見を反映させたカリキュラムへと進化させていきます。
- ⑥ 教育訓練給付金及び公共職業訓練を活用するリカレント教育を望む方に対しても、満足できる教育を提供して参ります。

3. 各学科におけるカリキュラム（2024 年度）の方針と年度末における報告・改善

国際 ICT・観光学科	(方針・報告) 専門職大学の認可を受け、本学科は募集停止となっております。新入生はいませんが、在学している学生に対してこれまで同様に丁寧な指導を行い、卒業後の進路をしっかりと提供してまいります。
	(改善) ➤ 資格取得に向けてより丁寧な検定対策講座を行います。 ➤ 4 年課程の強みを活かし、幅広い就職の選択肢を示しながら、早

	期からキャリア授業に力を入れ、学生の希望に沿った就職が決まるようサポートしてまいります。 ➤ 日本企業への就職が可能なように「職業体験（インターンシップ）」の強化を図ります。
--	---

グローバル ICT 学科	(方針・報告) ➤ 就職活動の早期化が進む中、学生が選考に進めるよう、1年次の秋頃からインターンシップ先企業や卒業生の就職先企業にご来校いただき、校内説明会を実施しました。早期に就職活動を始めた学生は、7月には複数の内定を得ており、ウェブデベロッパーやシステムエンジニア、技術職などへの内定者が多く見られました。そのほか、経理事務職への内定や、留学生1名が大学3年次に編入しました。 ➤ 検定受験を必須とする科目を多く設けており、Microsoft Office Specialist の合格率は 77.6%、IC3 GS5 コンピューティングファンダメンタルズは 53.8%、IT パスポート（国家試験）は 50%、Excel 分析ベーシックは 57.1%の合格率を記録しています。
	(改善) ➤ IT系企業からは、学生のうちに Chat GPT に触れておいてほしいとの声があるため、就職活動をはじめ、ビジネスシーンや今後の生活でどのように使えるのか等授業で紹介していく予定です ➤ 日本語能力試験 N2 レベルを持たない学生（定住・家族滞在ビザを含む）や留学生には、日本語の授業を優先させるとともに、ビジネスメールの書き方や PC 操作スキルを身に付けることができる授業を履修させていきます。

国際ビジネス学科 貿易・航空ビジネス コース	(方針・報告) ➤ 貿易業界のしくみと現状について、学生の理解を深めるためフォワーダー、エアカーゴ、国際物流企業の方にお越し頂いての講話、卒業生による就職活動報告、校内会社説明会の実施、川崎港コンテナターミナル見学、羽田空港航空貨物地区見学などを実施しました。 ➤ 就職活動を始めるに当たり、就業経験のない学生や留学生に日本で働くこと、企業の雰囲気、ビジネスマナー、物流業界の仕事内容を理解してもらうために、フォワーダー、エアカーゴの会社などをお願いをし、2月にインターンシップを行いました。6社で、16名が参加しました。 ➤ JAFA を介しての IATA ディプロマを前年度に引き続き実施しました。基礎コースはオンライン試験となり、英語対応ヘルプとして教
------------------------------	--

	師が入り、27 名が受験、25 名が合格、合格率は 93%でした。危険物コースは、危険物基礎を CBC の講師で 30 時間行い、JAF A 講師による 3 日間の集中授業で、最終日午後に試験を実施しました。11 名が受験し、100%の合格率で、内 10 名が 90 点以上 Distinction での合格という好成績でした。 (改善) ➤ 引き続き業界で求められている国際物流の知識を深め就業先で早期に戦力となり得る人材の育成を目指しています。 ➤ 新しい技術も取り入れながら、今後も貿易・航空業界など、広くグローバルロジスティクスに従事する者の育成に努めていきます。 ➤ ANA Cargo や NCA Japan など、エアカーゴ業界への就職を始めとし、20 代の学生の就職状況は好調でした。30 代、40 代の再就職学生も資格取得に努めた結果、再就職が進みました。今後も資格取得などに力を注ぐ一方で、再就職の学生も受け入れていただける企業を開拓していきたいと思います。
国際ビジネス学科 英語コミュニケーション コース	(方針・報告) ➤ 卒業生については、2 年間で TOEIC のスコアを大幅に伸ばした学生が多数おりました。コースの特性上将来の希望が曖昧な学生が多い傾向にありますが、授業内で自己分析や企業研究を行う時間を多く取り、こまめな面談を通して企業の採用活動開始前から方向性を定めさせるよう指導してまいりました。グランドスタッフ、ホテル、料亭、英会話スクール等多岐に渡る業界へ卒業生を送り出す事ができました。大学の 3 年次に編入した学生もおります。 (改善) ➤ 特にサービス業では採用に良い傾向があり、情報収集能力と柔軟性が求められています。学生が情報を収集・精査する能力を強化できるようなクラス運営を図ると共に、就職活動の準備段階から採用活動開始後まで含め、希望を限定しすぎず広い視野を持って活動するよう指導して参ります。 ➤ 中々、進路を決められない学生も多くいるため、一人でも多くの学生が希望する就職先を決めていけるよう、キャリアコンサルタントの資格を持つ先生に引き続き担任をお願いしていきます。
ホテルブライダル観光学 科	➤ (方針・報告) ➤ 今年度も高い就職率を維持しました。校内企業説明会や企業見学を定期的実施し、かつ、Google Classroom で求人情報を即座に学生に共有し反応を確認できたことが内定につながったと考えられます。再就職の学生に関しても、活動開始は遅かったものの、大手旅行会社の添乗員などサービス業界への再就職が実現しました。

	➤ インターンシップは、学生一人ひとりと面談をし、希望条件に合わせて企業を開拓したことで参加率が上がりました。ホテルの人事部からも繁忙期の即戦力として高い評価を得られました。 ➤ 国家試験である「総合旅行業務取扱管理者」に1名、「国内旅行業務取扱管理者」に4名が合格するなど、例年以上に関連資格の合格率が良く、対策講座の効果が数値で明らかになりました。 (改善) ➤ インバウンド需要の対応、サービス内容の発信に不可欠な IT スキルの向上に加え、マーケット需要の把握、それに基づくビジネスモデルを新たに生み出すことのできるカリキュラム構築をしております。 ➤ 企業実習を機に、就職活動を進めた学生もあり、今後も実習先企業の拡充と連携を密にしてキャリアサポートの充実をしております。
ビジネス日本語学科	(方針・報告) ➤ ビジネス対応を含めた日本語力および専門的知識の定着と更なる向上を目指すとともに、JLPT（日本語能力試験）、BJT（ビジネス日本語能力テスト）、秘書検定、日商簿記などの各種資格取得に向けて学習を積み重ねました。また、日々の授業全般を通して社会的コミュニケーション力、特に、「伝える力」に力を入れました。 ➤ 2年間の学修の集大成として、卒業制作発表会を2年次末にハイブリッド形式で行いました。発表会にあたっては、個別の学修内容の発表練習を学期ごとに実施してきており、実際の発表会でもその成果を発揮することができました。来賓の企業様には対面またはオンライン形式でご出席いただき、評価をいただくことができました。 ➤ 1年生も翌年の卒業制作発表会に備えてスピーチやプレゼンテーションに力を入れ、グループによる企業研究発表をクラス内で実施しました (改善) ➤ 専門科目においては、経済社会の基礎の定着を図った上で、知識重視の科目とならぬよう、現代を取り巻くニュース・新聞記事を取り上げ、「経済社会」の一員としての視野を広げていきます。 ➤ より実践的な授業を取り入れるために「インターンシップ」「特別講義」「課外活動」「卒業発表ビジネスプレゼンテーション」等を議論しながら、より高いレベルに仕上げ、仕事上必須のコミュニケーション能力を高めていきます。

国際ビジネス学科（夜）	（方針・報告） ➤ 英語ビジネス学科を募集停止とし、これに代替するものとして、国際ビジネス学科（夜）を新設しました。 ➤ 午後 2 時 30 分からの授業を履修できるようにし、科目の種類や通学スタイルの幅を広げ、より多くのニーズに応えられるようにしました。 ➤ また、既存の「英語・ICT コース」「貿易実践コース」に新たに「観光サービスコース」を加え、昼間部のホテルブライダル観光学科の持つ強みを夜に通学する学生も享受できるようにしました。
	（改善） ➤ 多様な学習者に対応するため、カリキュラムを柔軟に見直していきます。 ➤ 卒業までに学費を完納できない学生も珍しくない等、個別の状況を丁寧に把握することが求められる学科ですので、よくコミュニケーションを取りながら学生のニーズを把握し、適切に支えていきたいと思っています。

【学校関係者の方のコメント】

○専門職というのは企業にとって貴重な存在です。ぜひ、その貴重な存在であることの強みを対外的に伝えていくことが大事です。大学を単に卒業したことよりもしっかり専門的な勉強してきたという差別化が図れるようなカリキュラム策定をしていかれるとよいと思います。

○貿易関連でいえば、地元の川崎港は脚光を浴びつつあります。これからコンテナを置く場所などの確保が課題ではあるが、これからますます雇用が生まれる下地がありますので、学生にはしっかりと勉強をして欲しいと思います。

○観光関連では、全国でインバウンド需要が加速しており、訪日観光客の数は 2025 年に大阪で開催される万博の来場者を考えると予想以上に増加していくと考えられます。それだけに、川崎駅北口に行政センターと合わせて観光案内センターがありますので、学生の皆様方にボランティアとして手伝って頂けるような機会を提供できればということを学校関係者委員としては考えております。

【評価改善の方策】

○ご意見を踏まえて、次年度以降も業界や企業のニーズをとらえた職業人教育を各学科とも行ってまいります。

4. 評価項目の達成と取組状況(統一評価書による自己評価)

全ての評価について、適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや適切・・・2、不適切・・・1 としている

基準 1：教育理念・目標		学校関係者評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○グローバル化がさらに進むこれからの時代、国や文化が異なる人々と共生し、世界と対等に渡り合っていくために、コミュニケーション手段として「使える」英語など語学の活用が、今まで以上に求められています。外語ビジネス専門学校は、『地域の国際交流拠点』として、その役割が増していると思います。高校を卒業した学生への職業教育はもちろんですが、政府が進める「社会人の学び直し」にも積極的に取り組んでいることは、素晴らしいことだと思います。 ○理念や目標がしっかりと示されていて、非常に充実した教育環境だと思います。逆に良すぎて、中小企業にとっては、最先端の技術を社内に取り入れるのが人材的にも難しいと思います。このような恵まれた環境にいと、学生はそれが当たり前と思うかもしれませんが、これが当たり前と思ってほしくないです。最先端のスキルだけではなく、中小企業等でも活用できる、すそ野が広がるような教育にも目を向けて頂ければと思います。		
【評価改善の方策】 ○ご助言内容を踏まえて各学科などの教育目標や育成人材像の検討に役立てて参ります。		

基準 2. 学校運営	学校関係者評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する規定などは整備されているか	4
教務・財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○学校運営については、適切に行われていると思います。	
【評価改善の方策】 ○ICT を利活用することでより効率的な学校運営に繋げていくようにいたします。	

基準 3. 教育活動		学校関係者評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育課程レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3	学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設などや業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修などが行われているか	4 s
【学校関係者の方のコメント】 ○各学科におけるカリキュラムの方針と年度末における報告・改善でこの内容がよくまとめられていて、委員会でも丁寧に説明がありました。適宜方針を見直され、よりよいカリキュラムを提供してってください。 ○少子化が加速している中で、大学も全国に数多くありますが廃校になる大学も出てくると思います。そのような時代に、学校として生き残るために必要なことは、優秀な留学生に入学してもらい、しっかりとした日本の企業に就職するための職業教育を行うことです。 ○団塊の世代が 75 歳を超え、段階ジュニアの世代が 50 歳代になっている中、公務員なども 60 歳定年を 65 歳にして、民間企業も 70 歳にすることが時代の流れとしてあります。このようなリタイアされた方たちへの再教育することなど積極的に考えていかないと、学校として存続そのものが難しくなると思います。今日のようにご発展を遂げられたように、我々委員としてはぜひ、学園として発展していくための将来構想を「現状打破」の精神のもと検討して言って頂ければと思います。		
【評価改善の方策】 ○頂いた意見をもとに現状に満足することなく、より多くの方に本学園の良さを伝えられるようカリキュラムなどを検討して参ります。		

基準4. 教育成果		学校関係者評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○政府は就職氷河期世代の就労を後押しするため、施策の司令塔となる「支援推進室」を内閣官房に設けました。バブル経済崩壊後に高校や大学を卒業した30歳代後半から40歳代後半の人材について、正規雇用での就労を促すためです。今後もこのような形で、多様な世代への教育活動を進めていけばよろしいかと思います。 ○就職について、とても良好であるということ報告があった通り、しっかりしたカリキュラムを設定しているこの学校の学生であれば、企業は欲しい人材であると思います。		
【評価改善の方策】 ○キャリア支援センターを中心に企業情報などを的確に学生へ指導出来るようにして参ります。		

基準5. 学生支援		学校関係者評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○政府が取り組んでいる「大学等における修学の支援に関する法律」により神奈川県が確認機関となる修学支援（いわゆる高等教育無償化）の対象となっているということで、学費が理由で進学を断念する若年者を一人でも減らして頂ければと思います。 ○神奈川県の時制・通信制の学生を支援しようという「定通教育振興会」の制度で多くの高校生に希望を与えていましたが、定時制・通信制においては多様な生徒が多く在籍しています。日本国籍を持つ生徒はもちろん、永住ビザ、定住ビザ、家族ビザをもち日本の高校に通っていた生徒が貴校へ多く入学されていると聞いております。これからも振興会の制度を活用して頂ければと思います。		
【評価改善の方策】		

○これからも高等教育を受けることを希望する学生が、学費を理由に断念することがないように各種支援制度を充実させると共に、広く周知して参ります。

基準 6. 教育環境		学校関係者評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○Wi-Fi 環境をより充実させて学生にとっては、過ごしやすい環境になるための工夫をしていることが伺えます。今後も学生のために、よりよい環境を提供して頂ければと思います。		
【評価改善の方策】 ○頂いたコメントをもとに教育環境を整えて参ります。		

基準 7. 学生の募集と受け入れ		学校関係者評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○時代が学園の掲げるグローバル人材を求めていると感じます。ぜひ、募集人員を増やすことを考えられていくとよいと思います。 ○社会人の学び直しを行う国の方針などを改めて知り、就職氷河期世代の一員として同世代の方に頑張って勉強して欲しいと思います。また、この学園にはその方たちに寄り添って頂けるよう幅広く受け入れて頂ければと期待します。		
【評価改善の方策】 ○募集活動（広報）の在り方などを検討し、幅広い世代に教育内容などを伝えられるよう今まで以上に積極的に取り組んで参ります。		

基準 8. 財務		学校関係者評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○例年通りですが、財務も含めて、ウェブに対して外語ビジネス専門学校は情報公開をしており適切に対応されています。		
【評価改善の方策】		

○ 経営企画室などで中長期計画に基づいて、適切な財務計画を作成して参ります。

基準 9. 法令等の順守		学校関係者評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○情報公開なども含めて適切に対応されていると思います。 ○ウェブなどへの公開も制度の趣旨に基づいて分かり易く公開されていると思います。		
【評価改善の方策】 ○今後も適切な形で法令等を順守すると共に、適切な形で自己評価を公開して参ります。		

基準 10. 社会貢献		学校関係者評価
1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○昨年度の委員会で指摘させて頂いた、日曜日など検定実施をする際、警備員などの配置を強化して頂けるなどの対応をして頂きありがとうございます。 ○稲毛神社主催の「山王祭」で地域の方と一緒に、学生たちがお神輿を担いでいらっしやるのことで、貴重な体験をされていると思います。		
【評価改善の方策】 ○今後も地域の国際交流拠点として、活動をしっかりと行っていきたいと思います。		

基準 11 国際交流		学校関係者評価
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
2	受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
3	学習効果が国内外で評価される取組を行っているか	4
4	留学生の学習・生活支援等について学内で適切な体制が整備されているか	4
【学校関係者の方のコメント】 ○基準 10 とも被りますが、外語ビジネス専門学校の特徴をいかして積極的に取り組んでいただければと思います。 ○国際交流については、川崎の町で外国の方を見かけた際に「May I help you」と気軽に声掛けられる文化をこの学園の学生が作りだせるようになって頂ければと思います。		
【評価改善の方策】		

○これからも積極的に取り組んで参ります。

■基準12. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価結果につきましては、各項目において改善すべき点もありますが、47 項目の全てが標準的な水準以上にあると判断いたしました。現在、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度がスタートし、本校といたしましては、今まで以上に教育課程編成委員会などを通して産業界のニーズを適切に反映させてまいります。また、「理論と実践の架け橋による職業教育の充実」を図るとともに、単位制のフレームを活用して「社会人の学び直しや多様な学習ニーズ」への対応を強化していきます。以上のことから、総合評価は「4」といたします。

【学校関係者の方のコメント】

○今年度もしっかりと自己評価を作っておられ、学校関係者評価委員としても安心です。
○政府の方針や企業の方針なども踏まえて、「人＝人財」という視点を忘れずに、今後も「魅力的な職業人」を育成していただければと考えます。

【評価改善の方策】

○ご意見を頂いたことを参考に学園全体が発展していけるよう努力して参ります。